

6期生（2学年）の総合的な探究の時間

1. 年間の概要

「社会との繋がり」をテーマとし、生徒の困り事をもとに班で探究課題を設定した。身近な問い合わせ（課題）を解決する探究活動を行うことで、SDGsの達成に向けた自身と社会との繋がりについて探究した。年度末には、1年間の集大成として、探究内容についてまとめたレポートを作成した。

2. 年間指導計画

| | | 観点 | | |
|----|--|-------|----------|---------------|
| 月 | テーマ | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 4 | 班活動 ・問い合わせ（課題）の設定 ・探究のための仮説設定 | | ○ | ○ |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | 班活動 ・設定した問い合わせ（課題）について探究 ・スライド作成 | ○ | ○ | ○ |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 1 | 個人活動 ・探究内容についてまとめレポート作成 | ○ | | ○ |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

3. 取り組みの具体的な内容

(1) 生徒の困り事をもとに設定した問い合わせ（課題）についての探究活動

班ごとに問い合わせ（課題）を設定し、探究のサイクルを通して探究活動を行った。問い合わせ（課題）は、生徒の身近な困り事をもとに班で話し合って設定し、仮説を立てた。仮説を検証するため、書籍やHPを参考にするだけでなく、実験やアンケート調査を取り入れ、多面的多角的に検証した。以下は生徒が設定した問い合わせ（課題）と仮説の一部を一覧にしたものである。

○生徒が設定した問い合わせ（課題）と仮説の一例

| 問い合わせ（課題） | 仮説 |
|------------------------------|---|
| 人助けをする人を増やすには | 人助けをするほどの余裕が人々に無いから |
| 精神的ストレスの解消をするためには | 散歩をすると精神的余裕が生まれて、気持ちがリセットされる |
| 全ての生き物が安心して暮らせる土地づくり | 森林伐採の影響で居場所がなくなり、私たちが住む街へ出てくる |
| 食品ロス（米）を減らすには | ご飯の保存方法を工夫できないか |
| 海のゴミが増えていくにつれて海洋生物が減っていってしまう | ・街の至る所にゴミ箱を設定する ・プラスチック製のものを別の素材に置き換える |
| なぜ最近蜂を見ることが多くなっているのか | 蜂が暮らしやすい環境を減らしていけば被害が少なくなるのではないか |
| なぜ観光客は都市部に集中してしまうのか | インターネットを活用すれば、都市部以外にも観光客を呼びこむことができる |

(2) プレゼンテーション

(1) で探究した内容について、ロイロノートを用いて提示資料を作成し、プレゼンテーションを行った。ロイロノートのアンケート機能を用いて、フィードバックができる場を設定し、聞く生徒も発表者に対して考える機会とした。プレゼンテーション後の授業では、フィードバックを班員で確認し、自身の反省と合わせて、今後の発表に向けた振り返りを行った。

(3) 個人でレポート作成

1年間を通して探究した内容について、レポートでまとめた。その際、プレゼンテーションの時よりも内容を深め、SDGsの達成のために個人・社会の役割について言及するレポートとした。Googleドキュメントを用いて作成し、レポートの書き方や参考文献の用い方について学習し、実践した。

4. 今年度の活動を振り返って

今年度は、生徒自身や周囲の人が生活の中で困っていることから解決すべき内容を班でいくつか絞り、問い合わせ（課題）を立てることとした。困っていることを考える例として、公園、電車、校内など生徒の生活圏内に目を向け、問い合わせ（課題）を検討したが、設定した仮説が予想となっている生徒が多かったため、仮説と予想の違いを理解した上で仮説を設定することができるよう指導を工夫した。また、仮説の検証およびプレゼンテーションでは、明確な根拠に基づき、説得力のある発表内容となるよう指導を行った。次年度は、探究活動の集大成として、SDGsの達成に向けた自身のこれから生き方・在り方について探究活動を進めていく。